

会津美里町历史文化基本构想



平成 31 年 3 月
福島県会津美里町

序 文

会津美里町は、福島県の西半分を占める会津地方のほぼ中央、会津盆地の南西部に位置し、平成17年10月1日に、会津高田町・会津本郷町・新鶴村が合併し誕生しました。

緑豊かな田園風景の広がる本町には、先史時代より人の居住が確認され、伊佐須美神社や法用寺等古代からの縁起を持つ神社仏閣が数多く多数存在します。

本町における指定等文化財は、国・県・町を合わせて116件あり、特に国宝「一字蓮台法華経開結共（九巻）」（龍興寺蔵）が本町に所在することは、町の誇りとするところであります。また、本年2月8日には、「伊佐須美神社の御田植祭」が「会津の御田植祭」として「慶徳稲荷神社の御田植祭」とともに、国重要無形民俗文化財として指定答申を受けたばかりであり、祭典委員をはじめ多くの町民の皆さんにより継承されてきた努力が実を結んだものと関係者一同歓喜したところであります。指定等文化財以外にも町民の皆さんのご協力により現在に守り伝えられている文化財が多く存在し、本町は「歴史と文化の町」として広く知られているところであります。

しかしながら、少子高齢化による担い手不足や産業構造の変化による、文化財への影響は大きく、民俗芸能をはじめ多くの文化財等の保存・継承が年々難しくなっていることも現状です。

町の歴史文化は、現在の本町を形づくる基礎であり、長い歳月をかけ本町ならではの特色を培ってきました。この特色は大きな資源と考えられ、町の各種計画においても「本町の歴史文化は魅力あるまちづくりの資源である」と捉えています。

そこで、本町の歴史文化をもう一度見直し、その特色を把握し、これまで保存が中心であった施策から活用を含めた保護の施策を推進するため、町の文化財等の保護の方向性を定めた「会津美里町歴史文化基本構想」を策定しました。

本町の特色ある歴史文化を次世代へ継承し将来を担う子供たちのため、さらには地域の活性化のために、地域全体で本構想を具現化すべく具体的な事業を実施していく所存でございますので、引き続き皆様方のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、本構想の策定に当たりご尽力を賜りました、文化庁をはじめ福島県教育委員会、さらには福島県文化財保護審議会委員狩野勝重先生を委員長とする会津美里町歴史文化基本構想策定委員会委員の皆様、また、調査にご協力を賜りました町民の皆様をはじめ多くの関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

平成31年3月

会津美里町長

渡部 英敏

歴史文化基本構想の策定にあたって

平成28年度に始まった「会津美里町歴史文化基本構想策定事業」も平成31年3月をもって3年間の策定事業として終了時期を迎え、ご協力をいただいた町民の皆様をはじめ策定委員の皆様、さらには町長をはじめとした会津美里町庁内の皆様にご報告できますことを大変な喜びと感じながら感謝の意を表する次第です。

今回の歴史文化基本構想策定にあたっては、江戸時代後期に全国に先駆けて編纂された歴史的地誌『新編会津風土記』を基本的史料としながら、幕藩体制が確立された時期の検地に伴う『会津風土記』、『会津旧事雑考』、『会津四家合考』、その他の記録を参考にし、会津藩の穀倉地帯として財政を支える中心的存在として整備されてきたという歴史的背景を明らかにしつつ、そこに古代からの地元民間信仰が重ね合わさり、現在に至っているという特性を骨子としたこの地域特有のあり方を踏まえた「新たなまちづくり」につなげられたらと願っています。

そのような意味から、実際の活用計画に反映させる試験的な考察として建造物を取り巻く環境としての「山裾集落調査」を実施して参りましたが、そこには思いもかけないような集落の歴史的背景が掘り起こされて参りました。そこで、本報告においては、山裾集落調査で詳細を把握しきれなかった史料、史跡、民俗風習、天然記念物等を包括的に把握し、それを活かした観光のあり方等を模索しました。同時に、既に策定済みのまちづくりに関連する各種計画に新たな視点から集落ごとの遺跡分析、江戸時代における仏像評価、民俗風習等への関心を付加した総合的な調査手法の展開を加えた上で、より広い意味での文化財という認識を確かなものとして、まちづくりの資源として捉えていくことを提案させていただきました。会津盆地における平安時代初期から続く民間信仰形態の継承は今も会津美里町の皆様方の心の支えとして生き続け、神道・仏教・修験道のみならず、中世的農村維持形態として注目されるべき惣堂の存在をも包括した生活システムを残していることに大変な意義を感じている次第です。

文化財の活用計画が「新たなまちづくり計画」と密接に結びついて行くためにはまだまだ超えなければならない多くの問題が潜んでいることとは思いますが、それらの問題に町民が一丸となって立ち向かっていくことこそが重要な課題であるといえるでしょう。

まだまだ、漠然としたところもございますが、改めて町民の皆様方、関係者の皆様方に感謝の意を表するとともに、さらなるご協力をいただきながら、活用への一助となりますことを願って挨拶に代えさせていただきます。

平成31年3月

会津美里町歴史文化基本構想策定委員会委員長

狩野 勝重

例 言

1. 本書は福島県大沼郡会津美里町の歴史文化基本構想をまとめた報告書です。
2. 本構想は福島県大沼郡会津美里町教育委員会生涯学習課（以下、「生涯学習課」とする）が中心となり、平成28年度から平成30年度の3か年で策定しました。
3. 本構想の策定事業は、文化遺産総合活用推進事業の採択を受けて、文化庁による文化芸術振興費補助金の交付を受けて実施しました。
4. 本報告書の執筆担当は、下記のとおりです。図表の作成や全体の編集は生涯学習課が行いました。
 - 序 章…生涯学習課
 - 第1章…笹川壽夫、生涯学習課
 - 第2章…狩野勝重、若林繁、藤原妃敏、懸田弘訓、鈴木俊行、生涯学習課
 - 第3章…狩野勝重、生涯学習課
 - 第4章…生涯学習課
 - 第5章…狩野勝重、須賀忠芳、生涯学習課
 - 第6章…生涯学習課
 - 資料編…狩野勝重、藤原妃敏、柳沼賢治、懸田弘訓、若林繁、鈴木俊行、生涯学習課
5. 本報告書の一覧表や調査結果として掲載してある文化財等については3か年の策定事業で把握することができたものをまとめたものです。今後、増えていく性格を備えた暫定的なものであることをあらかじめご了承下さい。
6. 本構想の策定並びに本書の作成にあたり、多くの関係者や関係機関、町民の皆様から多大なるご協力を賜りました。ここに記して心より謝意を表します。

目 次

序文

歴史文化基本構想策定にあたって

序 章	1
1 構想策定の背景と目的	
2 策定の経緯	
3 構想の位置づけ	
第1章 会津美里町の概要	7
1 自然的・地理的環境	
2 社会的状況	
3 歴史的背景	
第2章 会津美里町の文化財の概要と特徴	49
1 指定等文化財の状況	
2 埋蔵文化財包蔵地	
3 会津美里町の文化財等の特徴	
第3章 会津美里町の歴史文化の特徴と関連文化財群の展開	69
1 会津美里町における歴史文化の特徴	
2 会津美里町の歴史文化をもとにした関連文化財群の展開	
第4章 文化財把握の方針	90
1 既存の文化財調査の概要	
2 文化財把握における課題	
3 文化財把握の方針	
第5章 文化財の保存活用に関する方針	97
1 文化財の保存・活用に関する課題	
2 保存・活用に関する方針	
第6章 保存・活用を推進するための体制整備の方向性	108
1 行政組織の体制	
2 歴史文化基本構想を推進する体制の確立	
【資料編】	
策定委員会	113
文化財調査等	114
アンケート調査結果	172
パブリックコメント募集結果	178

会津美里町历史文化基本构想

平成31年3月
福島県会津美里町

序 章

1 構想策定の背景と目的

文化財は、国・県・町の指定等された文化財（以下「指定等文化財」という。）、指定等されていない文化財（以下「未指定文化財」という。）に関わらず、本町の歴史、文化等の正しい理解のため欠くことのできないものであり、将来の文化の向上発展の基礎をなすものです。これらは、長い年月を経て、地域の人々の手によって守られてきました。

近年、産業構造の変化や価値観の多様化、人口減少など、文化財を取り巻く社会的環境は大きく変化したし、保存や継承が困難になってきています。しかし、文化財の消滅は単なる物の消滅とは異なり、文化財の背景にある歴史や、文化財の維持継承をもとにつながっていた人間関係の消滅にもつながりかねません。

本町において、指定等文化財の多くは、市街地を有する高田・本郷の中心地よりも、その周辺に点在する山裾集落に多く分布しています。各集落は、江戸時代を通じて位置や名称等大きな変化はなく、稲作を中心とした農業が営まれ、産業構造の基盤を形成してきたという歴史上の背景があり、現在の自治区に引き継がれています。

いずれの集落も、文化財を有する主に寺社が中心となって、地域が連帯感を持っている傾向を見ることができますが、社会的環境変化の影響を大きく受け、国指定文化財はもとより、県指定文化財や町指定文化財の維持継承、特に無形民俗文化財の継承が困難な状況に陥っています。まして、未指定文化財においては、集落の歴史を知る上で欠かすことのできない文化財であるにも関わらず、その価値が見いだされないまま失われつつあります。

そのような中、歴史文化を観光資源や地域づくりに活用する動きがでてきています。平成27年度に「会津の三十三観音めぐり」が日本遺産に認定されると、その文化的背景の奥深さとともに、その活用の効果が認識されました。しかし、一方で維持管理や未指定文化財の消滅などの問題が指摘されました。

また、本町の歴史に対して若い世代の興味や関心が薄いことも文化財の保存・継承が困難になっている要因の一つとしてあげられます。若い世代が、豊かな歴史文化に気づいて郷土に愛着を持ち、さらにそれを子ども達へ伝えていくための対応も必要となっています。

さらに、地区の歴史文化は活用するための資源の原石の一つですが、住民に認識されにくいのが現状です。歴史文化をどのようにして地区の魅力として磨き上げ活かしていくか、住民自身が考えていくこともこれからの大切な作業と考えられます。

これらに加え、行政として文化財の保護が保存中心の施策であったという制度的要因、収蔵施設が点在し町所有資料の適切な保存及び周知ができないという設備的要因等もあり、町の歴史文化を引き継ぐための活動に十分な支援が難しい状況がありました。

そのため、未指定文化財を含めた文化財等の本町の歴史文化を後世に引き継ぐため、保存と活用を通して文化財の保護を行うべく、その方向性を示した「会津美里町歴史文化基本構想」を策定するものです。

2 策定の経緯

2-1 策定委員会等の設置

2-1-1 策定委員会

会津美里町内に所在する文化財を総合的に保存・活用し、歴史及び文化を活かした地域づくりを行うための指針となる「会津美里町歴史文化基本構想」を策定するため、会津美里町歴史文化基本構想策定委員会（以下「策定委員会」という。）を設置しました。

平成28年12月26日、第1回目の策定委員会を開催し、委員の委嘱を行いました。

◎会津美里町歴史文化基本構想策定委員会委員名簿（平成28～30年度）

役職	氏名	専門分野等	備考
委員長	狩野勝重	建造物	伝統建築文化推進協議会会員 福島県文化財保護審議会委員
副委員長	須賀忠芳	観光・中世文献	東洋大学国際観光学部国際観光学科教授
委員	懸田弘訓	有形・無形民俗文化財	福島県文化財保護審議会委員
〃	若林繁	彫刻・仏像・仏教史	福島県文化財保護審議会委員
〃	鈴木俊行	天然記念物(樹木)	福島県文化財保護審議会委員
〃	柳沼賢治	文化財を活用した地域づくり	福島大学うつくしまふくしま未来支援センター 特任教授
〃	笹川壽夫	地方史	会津美里町文化財保護審議会会長
〃	遠藤秀一	観光振興	会津美里町観光協会本郷部会長
〃	弓田修司	伝統工芸	会津本郷焼事業協同組合代表理事
〃	佐治和則	教育行政	教育委員会教育長 H28・29
〃	新田銀一	教育行政	教育委員会教育長 H30
〃	佐々木宏光	総務・財政	総務課長 H28・29
〃	鈴木國人	総務・財政	農林課長 H28・29・総務課長 H30
〃	歌川敏	まちづくり行政	まちづくり政策課長 H28・29
〃	小川良典	まちづくり行政	まちづくり政策課長 H30
〃	阿部正寿	観光行政	商工観光課長 H28
〃	江川正一	観光行政	商工観光課長 H29
〃	国分利則	観光行政	商工観光課長 H30
〃	長嶺清忠	建設行政	建設課長 H30
〃	佐瀬充	農林行政	建設課長 H28・29・農林課長 H30

2-1-2 調査部会

◎調査部会委員名簿（平成29～30年度）

役職	氏名	専門分野等	備考
部会長	◎狩野勝重	建造物	伝統建築文化推進協議会会員 福島県文化財保護審議会委員
副部会長	◎笹川壽夫	地方史	会津美里町文化財保護審議会会長
委員	◎懸田弘訓	有形・無形民俗文化財	福島県文化財保護審議会委員
〃	◎若林繁	彫刻・仏像・仏教史	福島県文化財保護審議会委員
〃	藤原妃敏	考古学	元福島県立博物館学芸課長
〃	永井康雄	建造物	山形大学教授
〃	◎遠藤秀一	郷土史	会津美里町文化財保護審議会副会長
〃	飯森修二	郷土史	会津美里町文化財保護審議会委員
〃	遠藤広	建造物	大建工業有限会社代表取締役（社寺建築修理）
〃	須藤哲也	教育・生涯学習	会津美里町教育委員会教育次長兼生涯学習課長

2-1-3 活用部会

◎活用部会委員名簿（平成30年度）

役職	氏名	備考
部会長	鶴川晃	建設課管理係長
副部会長	梶原圭介	教育委員会生涯学習課文化係長
委員	高橋力也	商工観光課観光係長
〃	川田浩泰	まちづくり政策課みさと創生係長
〃	服部兼尚	会津美里町観光協会
〃	松田純一	会津本郷焼事業協同組合

3 構想の位置づけ

3-1 第3次総合計画

会津美里町は平成17年10月に、会津高田町、会津本郷町、新鶴村が合併したことにより誕生しました。合併に際して「会津美里町まちづくり計画」を策定し、それに基づき平成18年度には「会津美里町第1次振興計画」を、平成23年度には「会津美里町第2次総合計画」を策定し、課題解決に取り組んできました。

しかし、第2次総合計画に人口推計としていた人口よりも、人口減少が進み、人口減少対策の重要性が高まってきました。そのような中、平成28年度に本町の最上位計画として「会津美里町第3次総合計画」を策定しました。

この総合計画では、町の将来像を「まるごと いいね！ 会津美里 ～人咲き 花咲き 文化輝く 希望あふれる未来へ～」と定め、「元気づくりプロジェクト（人口減少対策）」、「里づくりプロジェクト（環境整備）」、「人づくりプロジェクト（人材育成）」の3つの重点プロジェクトに取り組めます。

「里づくりプロジェクト」では「風景資源や文化財、町並み、伝統芸能を守り育てることで、観光交流を推進し、地域の魅力の発信」、「人づくりプロジェクト」では「少子化が進むなか、自然学習や農業体験、社会学習等を通して豊かな人間性を育むなどの次世代を担う子どもの教育の充実や、地域の産業、伝統工芸の担い手の確保など地域活性化の中心的な役割を果たす若者の育成」を図ります。

3-2 第2期会津美里町教育振興基本計画

教育委員会では「会津美里町第3次総合計画」を上位計画として、平成27年度に「第2期会津美里町教育振興基本計画」を策定しました。この計画では、「学びあい ころ豊かでたくましい 未来を拓く 人づくり」を基本理念に、「知・徳・体のバランスのとれた「美里っこ」の育成」、「生涯にわたって積極的に学べる環境づくり」、「生涯スポーツに親しめる環境づくり」、「文化財の保存・活用と地域文化の継承」を基本目標としました。文化財に関しては「文化財の保存・活用と地域文化の継承」の中で、「文化財の保存と活用」と「伝統文化の継承」を基本施策として実施します。特に「文化財の保存と活用」においては、郷土の貴重な文化財を次代に継承するための保護・保存、活用に関する取り組みの必要性があげられていることから、「第2期会津美里町教育振興基本計画」を本構想の上位計画として整合性を図ります。

3-3 関連する計画

関連する計画は、「会津美里町観光振興計画」、「会津美里町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略」、「会津美里町都市計画マスタープラン」であり、いずれの計画においても本町の歴史文化は町の特色であり、魅力あるまちづくりの資源として捉え、活用の推進を進めるものです。そのため、「会津美里町歴史文化基本構想」は、効率的効果的な事業の推進を行うため、各計画との連携・整合性を図りながら事業展開をしていきます。

3-3-1 会津美里町観光振興計画

平成27年度に策定した「会津美里町観光振興計画」では、「いればいるほど元気になれる ^{うるわ} 美しの里」を将来像に、「会津美里町の地域資源を活かし、人が主役となり、地域をつなげる観光地づくり」を基本理念とし、本町の歴史文化を地域資源の特色として位置づけます。また、高田地域を寺社や蔵などの歴史的建造物が多く、歴史的施設や生活文化を活かした取り組みを推進する「文化と歴史のゾーン」、本郷地域を会津本郷焼等の産業や関連施設、国指定史跡である向羽黒山城跡等を活かした取り組み、関山・左下り観音堂等を含めた周遊形成を推進する「産業と歴史のゾーン」としてエリア分け

し、地域の特色を活かした取組を行うことで、観光入込客数の拡大を図ります。

3-3-2 会津美里町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン総合戦略

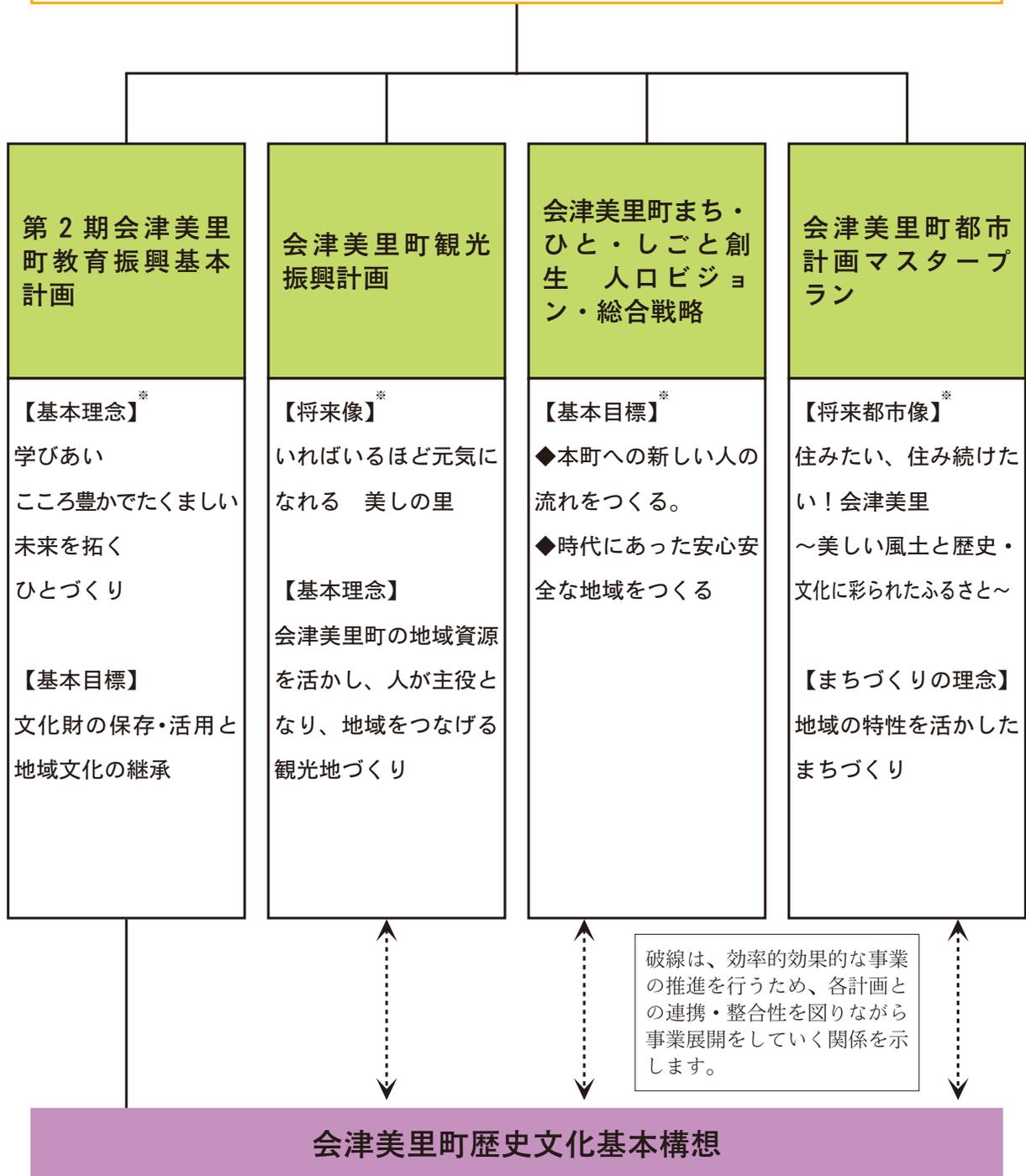
平成27年度に策定の「会津美里町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略」においては、「本町における安定した雇用を創出する」、「本町への新しい人の流れをつくる」、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」、「時代にあった安心安全な地域をつくる」の4つの基本目標のうち、「本町への新しい人の流れをつくる」においては「故郷を愛する心を育む教育」として、学校教育において本町の歴史や文化を理解し、故郷を愛する心を育てる教育の推進を図り、「時代にあった安心安全な地域をつくる」では「文化財を活用した地域づくり」として、子どもから高齢者まで町民が町の魅力を感じながら生活できる環境を整えるため、住民と行政が一体になり、まちづくりを進めるための事業を展開するとともに、町の歴史や文化、隠れた宝を探すことにより、自分たちのふるさとに誇りを持てるような郷土学習の推進を図ります。

3-3-3 会津美里町都市計画マスタープラン

平成29年度に策定の「会津美里町都市計画マスタープラン」は、「住みたい、住み続けたい！会津美里～美しい風土と歴史・文化に彩られたふるさと」を将来像として、「安心して住み続けられるまちづくり」、「自然と共生するまちづくり」、「地域の特性を活かしたまちづくり」を理念とします。特に「地域の特性を活かしたまちづくり」において、町の歴史や文化が地域の特性であり、それが魅力的なまちづくりにつながるとし、「まちの歴史や文化など、地域の特性を活かした特色ある拠点づくりを進め、町民同士の交流や観光交流を促し、魅力的なまちづくり」を推進します。

会津美里町第3次総合計画

まるごと いいね！ 会津美里
 ～人咲き 花咲き 文化輝く 希望あふれる未来へ～



本構想は、「第2期会津美里町教育振興基本計画」を上位計画として整合性を図ります。

※各計画の【基本理念】や【将来像】等については、会津美里町歴史文化基本構想に関連する項目を抜き出しました。

1-2 地名

本町は、3つの地域から形成されています。それぞれの地域は、歴史的・文化的に大きく異なります。

伊佐須美神社を文化の中心とし、下野街道・越後街道の脇街道の宿駅として発展したのが高田地域です。この地域は文化的に異なる2つに分けられています。一つは江戸時代に幕府領（御蔵入領）であった永井野地区・旭地区・尾岐地区・東尾岐地区・赤沢地区の一部（赤留・八木沢）、もう一つは会津藩領の高田地区・藤川地区・赤沢地区の一部（雀林・寺崎）です。

下野街道沿いに位置し、会津本郷焼の産地として知られるのが本郷地域です。この地域は、国指定史跡である中世山城・向羽黒山城跡を有し、山城跡を中心とした中世の景観と、近世以降の会津本郷焼の里としての景観が混在しています。

新鶴地域は、古墳等の遺跡が多い農村地帯で、現在も各集落に伝統的な芸能や風習が色濃く残っています。

近世から現在までの集落の変遷を確認するため、江戸時代に編纂された地誌『新編会津風土記』をもとに各集落の調査を行ったところ、市街地を除き各集落名について大きな変化はみられませんでした。

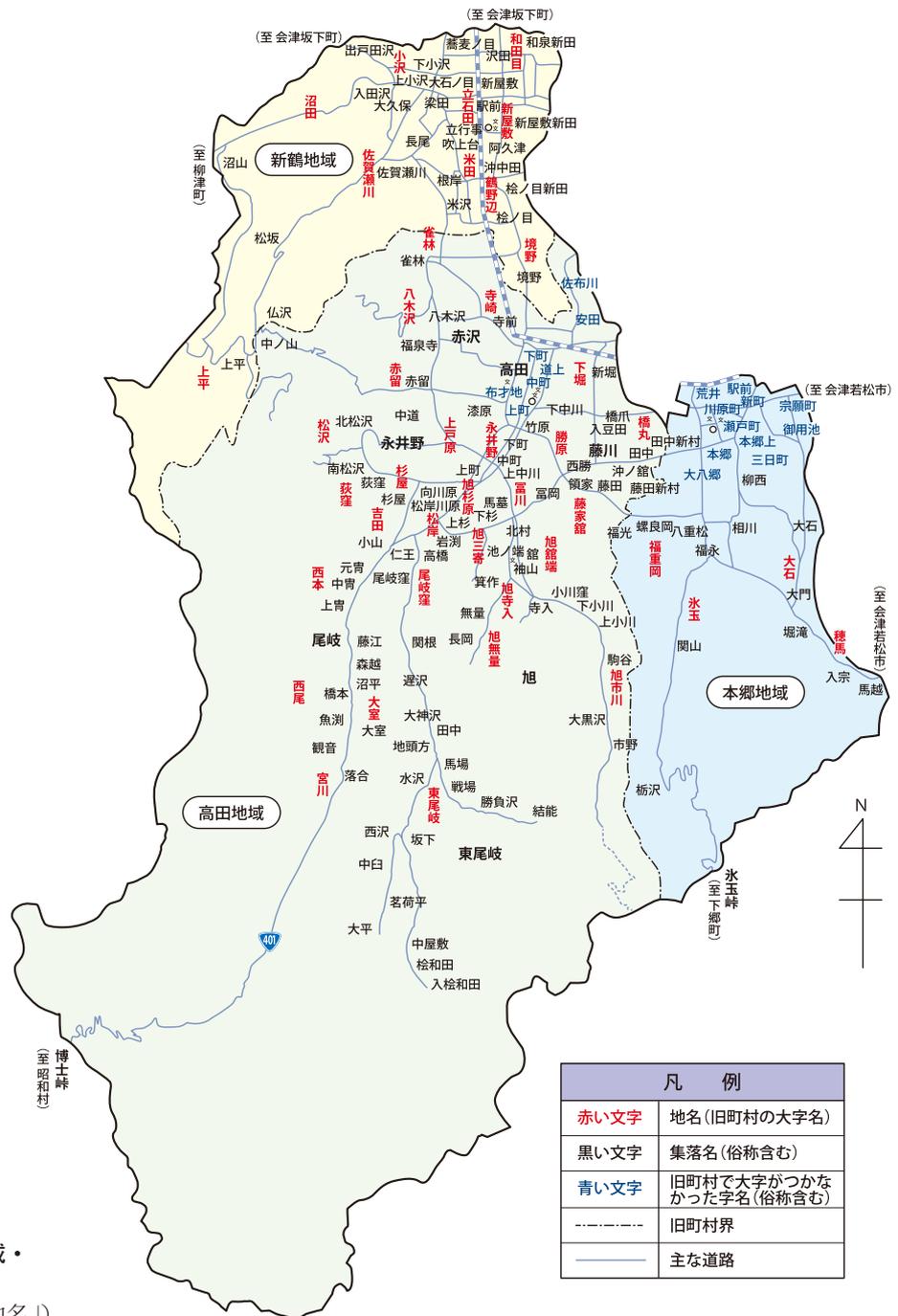


図 会津美里町の主な地名
 (青：本郷地域・緑：高田地域・
 クリーム：新鶴地域)
 (出典：「会津美里町の主な地名」)

表 『新編会津風土記』における村名と現在の集落名との整合性

組名	村名	現在の集落名	組名	村名	現在の集落名	
橋爪組 (大沼郡)	橋爪村	橋爪・田中・田中新村	中荒井組	出戸田沢村	出戸田沢	
	新堀村	新堀		入田沢村	入田沢	
	下中川村	下中川	永井野組	永井野村	永井野・漆原	
	領家村	領家・沖ノ館		上戸原村	上戸原	
	藤田村	藤田		杉内村	杉ノ内	
	福光村	福光		荻窪村	荻窪・中村	
	関山村・上小松村	関山・栃沢		蛇喰村	麿村(蛇喰)	
	福永村	福永		松沢村	北松沢・南松沢	
	八重松村	八重松		赤留村	赤留	
	田羸岡村	螺良岡		八木沢村	八木沢	
	大八郷村	大八郷		東尾岐組	東尾岐村	関根・遅沢・台・大神沢・田中・地頭方・馬場・水沢・戦場・勝負沢・結能・西沢・茗荷平・桧和田・大平
	相川村	相川			長岡館村	館
	本郷村	本郷・三日町	北村		北村	
上米塚村(本村は会津若松市)	宗頤町	岩淵村	岩淵			
上荒井村	荒井	箕作村	箕作			
上荒井新田村	新町	池端村	池ノ端			
南青木組	大石村	大石・大門・柳西	無量村		無量・長岡	
	穂谷沢村	入宗・堀滝	寺入村		寺入・新屋敷・袖山	
	馬越村	馬越	小川窪村		小川窪	
	小谷村	(会津若松市)	市野村		市野・大黒沢・駒谷・上小川・下小川	
高田組	高田村	高田	大室村	大室		
	竹原村	竹原	冑組	冑村	元冑・中冑・上冑	
	西勝村	西勝		尾岐窪村	尾岐窪	
	富岡村	富岡		上杉原村	上杉	
	上中川村	上中川		下杉原村	下杉・馬ノ墓	
	屋敷村	下屋敷・上屋敷		松岸村	松岸	
	境新田村	高田の一部		仁王村	仁王・高橋	
	安田村	安田		堀内村	仁王の一部	
	佐布川村	佐布川		小山村	小山	
	境野村	境野		菅沼村	麿村(菅沼)	
	寺崎村	寺崎		大岩村	麿村(大岩)	
	雀林村	雀林	海老山村	麿村(海老山)		
	檜目村	桧ノ目・桧ノ目新田	藤江村	藤江		
	米沢村	米沢	沼平村	沼平		
	根岸中田村	根岸	魚淵村	魚淵		
	沖中田村	沖中田	観音村	観音		
	阿久津村	阿久津	落合村	落合		
	新屋敷村	新屋敷	牧内村	麿村		
	新屋敷新田村	新屋敷新田	下谷地村	麿村		
	立行事村	立行事	中在家村	麿村		
逆瀬川村	佐賀瀬川・松坂・仏沢	中村	麿村			
軽井沢村(本村は柳津町)	市野・上平	入谷地村	麿村			
中荒井組	和泉新田村	和泉新田				
	沢田村	沢田				
	蕎麦ノ目村	蕎麦ノ目				
	大石目村	大石ノ目				
	梁田村	梁田				
	小沢村	上小沢・下小沢				
	西原村	上小沢の一部				

※『新編会津風土記』の村名と対応しているため、現在の集落名が入っていないところがあります。

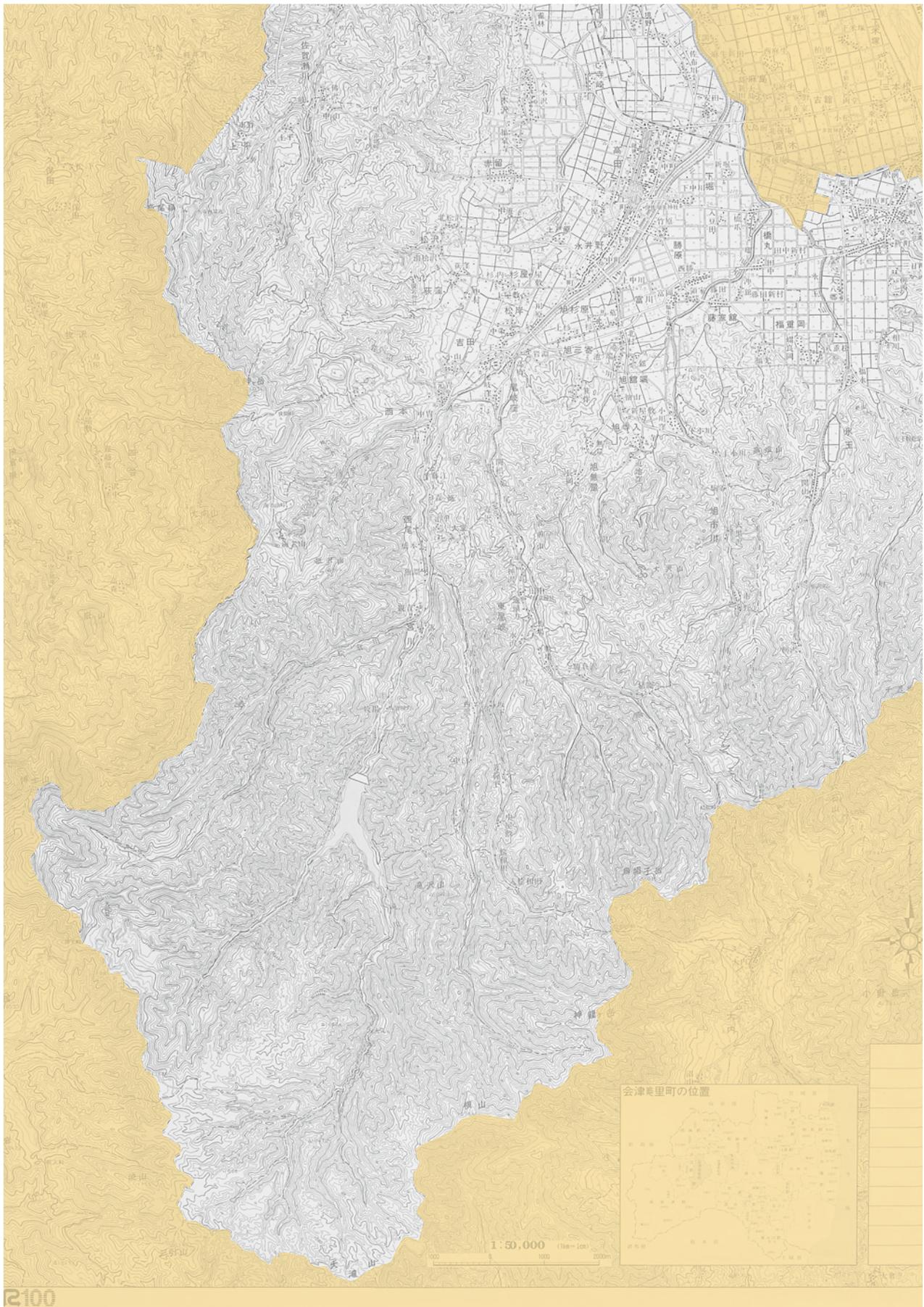


図 高田地域の地区名 (出典：「会津美里町管内図」)

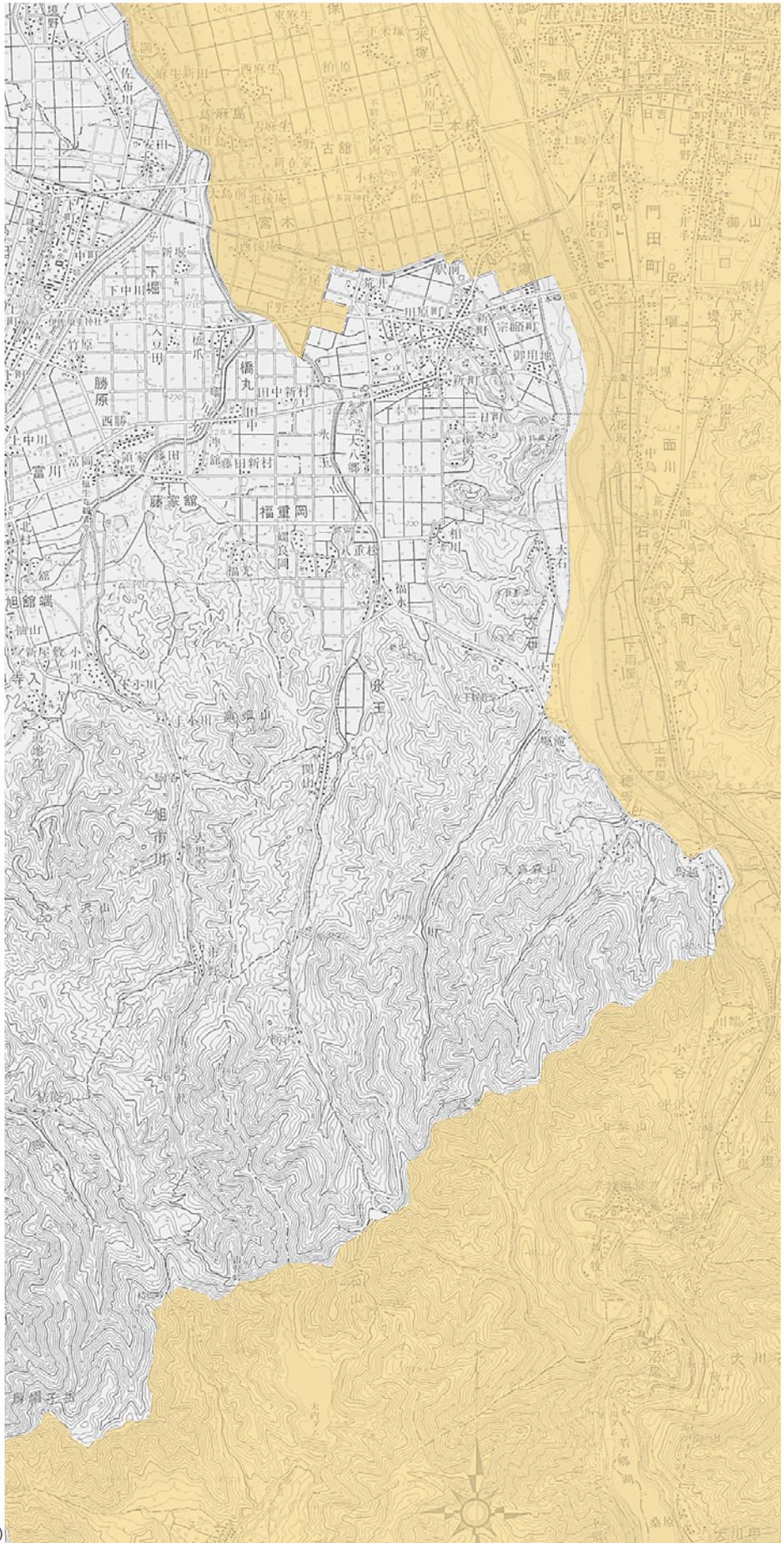


図 本郷地域の地区名
 (出典：「会津美里町管内図」)

美里町管内図



図 新鶴地域の地区名 (出典：「会津美里町管内図」)

1-3 地形・地質

1-3-1 地形

本町は、会津盆地南西の平坦部と盆地に突き出した丘陵を含む周縁山地からなっています。北部に広がる平野部は肥沃な土壌の沖積層からなり、主として水田に利用されています。また、南部は、会津盆地の外縁山岳及び山麓の山間地帯で町の約7割を森林が占めます。

本町の各種地形は、川の浸食と堆積によってつくられた扇状地や河岸段丘、谷底平野が多く、その他地滑り地形、断層地形等が見られます。

町域のほとんどは、山地から平野部に広がる扇状地によって形成されています。扇状地は規模の大きい宮川扇状地・藤川川扇状地・佐賀瀬川扇状地等があるほか、永井野地区・赤沢地区・尾岐地区等は、小規模な複合扇状地となっています。

河岸段丘は宮川・東尾岐川・佐賀瀬川等に見られ、谷底平野とされるものは東尾岐地区の関根・遅沢周辺に見られます。

また、地滑り地形は過去において地滑りを起こした跡であり、大岩等に見られます。

根岸・米沢・雀林・八木沢・赤留等を含む会津盆地と西側山地の接点は断層地形となり、一直線上に盆地と山地が区別されています。この断層は、「会津盆地西縁断層」と言われ、この地下には活断層が潜在しています。



(出典：インターネットからの図加筆)



図 会津美里町管内図

(1) 主要な山地

本町の主要な山地については次の通りです。

山地区分	名称	標高	地域名	所在地
みょうじんがたけ 明神ヶ岳山地	みょうじんがたけ 明神ヶ岳	1,074.2m	高田地域	西本
	たかおみね 高尾嶺	869.3m	新鶴地域	上平
はかせやま 博士山山地	はかせやま 博士山	1,482.0m	高田地域	松坂
かろうがたけ 神籠ヶ岳山地	よこやま 横山	1,378.8m	高田地域	松坂
	かろうがたけ 神籠ヶ岳	1,376.3m	高田地域	東尾岐
	えぼしたけ 烏帽子岳	1,095.4m	高田地域	東尾岐
	ろっこくやま 六石山	1,018.0m	本郷地域	氷玉（山頂：下郷町）
	おおたかもりやま 大高森山	641.6m	本郷地域	穂馬
たかはたけやま 高畑山山地	たかはたけやま 高畑山	542.8m	高田地域 本郷地域	藤家館 福重岡

(出典：「会津美里町地域防災計画（第5版）」)

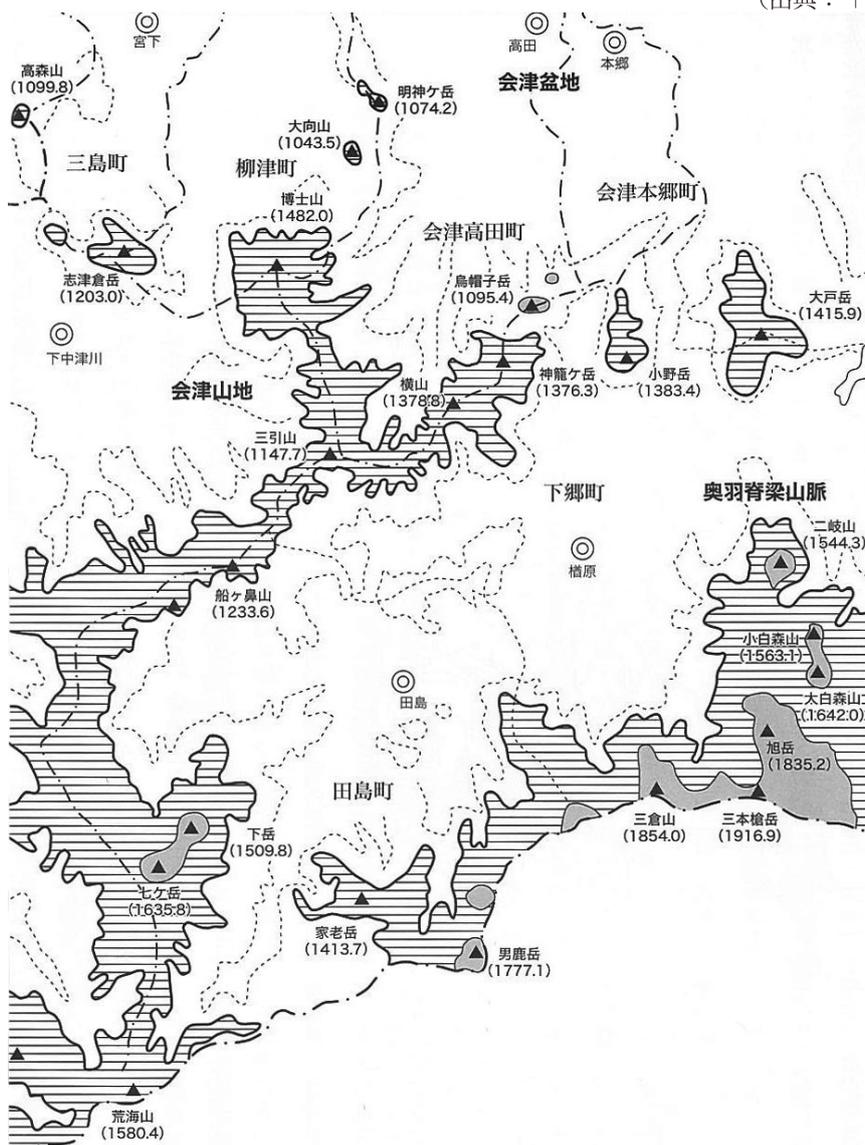


図 本町の主要な山地
(出典：『会津高田町史 第五巻』)

(2) 主要な河川

本町を流れる最大の河川は、その流れを介して本町と会津若松市を分けている阿賀川(大川)です。阿賀川は本町、会津若松市、会津坂下町、西会津町を通り、県境を越えて新潟県に入ると「阿賀野川」と名を変えて日本海に至ります。

本町を流れる河川は、全て阿賀川の支流でその流域は主に高田地域及び新鶴地域に存在します。

なお、本町の主要な河川については、次の通りです。

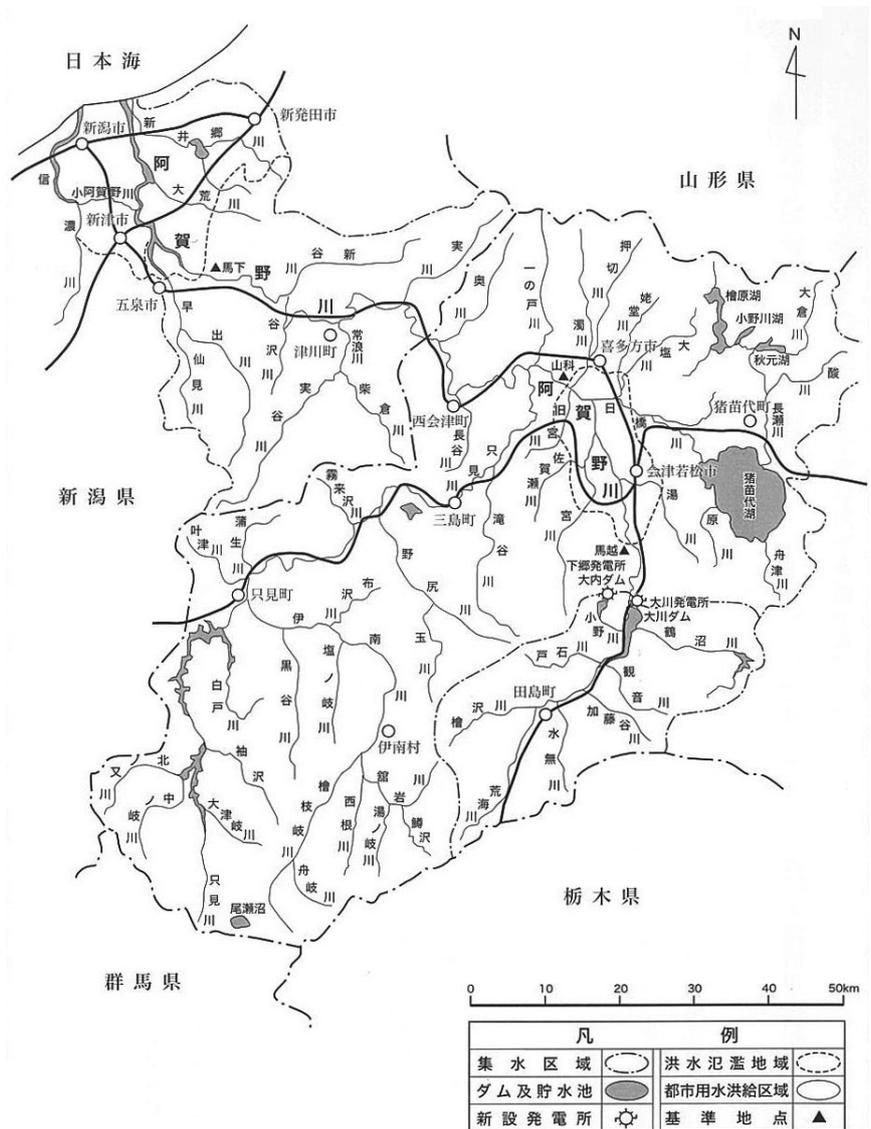


図 本町の主要な河川
(出典：『会津高田町史 第五巻』)

表 本町の主要河川

河川名				管内延長	地域名	区間
幹川	支川	支川	支川			
阿賀川				6.9 km (145.1 km)	本郷地域	南会津郡南会津町滝ノ原字獅子小屋1706番地先～新潟県境
	宮川			(27.5 km)	高田地域 新鶴地域	松坂字赤面361番地先～阿賀川への合流点
		佐賀瀬川		8.9 km	新鶴地域	上平字二岐3081番地先～宮川への合流点
			上平川	2.0 km	新鶴地域	上平字西入の沢2320番地先～上平字中曾根2250番地先
		赤沢川		10.0 km	高田地域 新鶴地域	松坂字中ノ沢2842番地先～宮川への合流点
			花川	2.5 km	高田地域 新鶴地域	字道東2416番地先～赤沢川への合流点
			品窪沢川	3.3 km	高田地域	松岸字五本松211番地先～赤沢川への合流点

		藤川川		13.0 km	高田地域	旭市川字市野甲1913番地先 ～宮川への合流点
			氷玉川	6.8 km	本郷地域 高田地域	氷玉字小西沢甲2215番1地先 ～藤川への合流点
			館の川	2.1 km	高田地域	旭無量字大坂1767番地先 ～藤川への合流点
		東尾岐		10.0 km	高田地域	東尾岐字下川原10000番地先 ～宮川への合流点
		博士川		1.1 km	高田地域	松坂字博士沢丁625番地56地先 ～宮川への合流点
	旧宮川 (会津坂下町)	田沢川		4.3 km	新鶴地域	沼田字屋敷丙844番地の1地先 ～沼田字カン799番地先

(出典：「会津美里町地域防災計画（第5版）」)

1-3-2 地質

本町における地質は北部農耕地では堆積した凝灰岩が、山岳地では凝灰岩を主とする石英安山岩が主体をなしています。

本町は観音層や田中層と呼ばれる緑色凝灰岩や貝の化石が採集されることから、約1,450万年前（中新世中期）には海中にあったことが分かっています。約700万年前（中新世後期）には会津盆地は大きな湖水であり、標高の高い場所だけが陸地となっていました。その後会津内の火山活動が活発になり、カルデラが形成されました。

そして、約20万年前には、湖も姿を失い、現在の会津盆地が形成されました。会津美里町の地層は会津盆地の地層とほとんど重複した地層です。



図 中新世中期の海陸分布



図 中新世後期の内陸性湖沼



図 会津地方のカルデラ
(いずれも、出典：『会津高田町史 第五巻』)

1-4 気候

会津地方は冷温帯に属し、その気候は、温帯多雨気候に区分され、周囲を山に囲まれた盆地であることから夏は高温多湿の猛暑となり、雷も多い地域です。また冬は好天が少なく、12月中旬から2月にかけて豪雪となります。積雪は最大で1 mを越すこともあります。

四季の変化が非常に顕著で、春と秋は日中と夜間の気温差が大きく、特に秋には霧の日が多く日中まで霧の晴れない日が続きます。

本町の気候も会津地方の気候と同様で、内陸盆地特有の複雑な気候を示し、降雪量も多く、積雪期間は約90日にわたります。

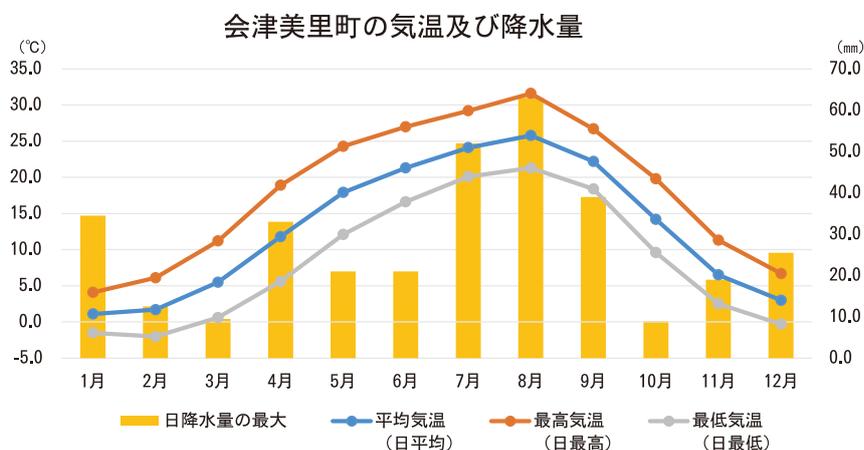


積雪の様子

表 2016年の気候（気象庁・会津若松測候所）

月	平均現地気圧 hpa	平均気温 (日平均) ℃	最高気温 (日最高) ℃	最低気温 (日最低) ℃	平均湿度 %	降水量 mm	最深積雪 cm	雪日数 日
1月	991.2	1.1	4.1	-1.5	85	92.0	18	29
2月	993.9	1.7	6.1	-2.0	77	38.5	10	23
3月	994.0	5.5	11.2	0.6	71	33.5	15	13
4月	988.7	11.8	18.9	5.6	68	95.0	2	1
5月	988.5	17.9	24.3	12.1	66	48.5	--	0
6月	984.9	21.3	27.0	16.6	71	76.0	--	0
7月	985.8	24.1	29.2	20.1	77	94.0	--	0
8月	981.5	25.8	31.6	21.3	76	231.5	--	0
9月	989.6	22.2	26.7	18.4	82	165.0	--	0
10月	993.6	14.2	19.8	9.6	79	35.5	--	1
11月	994.9	6.5	11.3	2.5	81	51.5	--	11
12月	993.5	3.0	6.7	-0.3	88	98.5	13	24
年間	990.0	12.9			77	1,059.5		

（出典：「会津美里町地域防災計画書（第5版）」）



1-5 生態系

1-5-1 植物

本町の気候帯は冷温帯に属するため、その代表的な植物はブナです。しかし現在、ブナは奥山にはありますが、里山ではほとんど見られなくなったため、ナラが代表的植物となっています。そのため、この地域の植生分布は、落葉広葉樹林帯といえます。

植生は、人里、里山、奥山によって異なり、本町の特徴的な植生として蓋沼森林公園があげられます。

人里は、家の周辺や耕作地等の絶えず人が関係している地域で、主に本町の平坦地を指します。市街地周辺の山裾集落も人家周辺は人里といえます。

尾岐・東尾岐・沼山の山間の集落は、集落のそばまで山が迫っており、山との関係は切り離すことができません。その集落近くにあり、人によって管理されてきたのが里山です。

奥山は里山に対する通俗語で、通常人が出入りしない山地のことです。主に赤留や松沢、旭市川、沼山の奥等があげられます。

(1) 人里の植生

耕地においては、大部分がスベリヒユやイヌビユ等の雑草の一年草であり、ヒメオドリコソウやヒメムカシヨモギのような越年草が混在します。また、耕作地以外ではオオバコやカゼクサ等の多年草が生育します。



伊佐須美神社の社叢

近年、地域差はありますが、セイタカアワダチソウやセイヨウタンポポのような帰化植物が多く見られるようになりました。

また、人里の植生の特徴として、屋敷林・社寺林の存在があげられます。風雪防護の屋敷林としては、ケヤキ・ハンノキ・スギが多く植えられました。一方、社寺林のほとんどはスギが植えられています。

本町での社寺林の例外としては、伊佐須美神社の社叢がこれまで皆伐されたことがないことから、古来の植生の一部が残っていると見られ、町天然記念物に指定されています。

(2) 里山の植生

山間の集落では仕事の大部分が植物に関係した仕事でした。集落からおよそ2 km以内が毎日の仕事場である里山といわれる範囲で、人の干渉によって維持されてきました。

薪炭材としてコナラが、樹皮を剥ぎ取り繊維としてシナノキ・ヤマブドウが、染料・薬料として皮を利用するキハダ等が生活に役立つ植物として、植えられ管理されていました。かつて行われていた焼畑は現在行われなくなり、その跡地の多くはスギの植林地となっています。

(3) 奥山の植生

本町の奥山に存在する自然林の大部分はブナやミズナラといった落葉広葉樹林で、その中に天然スギやクロベといった常緑針葉樹が点在します。

本町でのブナの生育圏は、およそ標高800m以上の山地で、明神ヶ岳、博士山等の山々です。ブナ

のほかにも、ミズナラ・コシアブラ・イタヤカエデ・オオヤマザクラ・シナノキ・ホオノキ・ケヤキ等の落葉広葉樹が生育します。

(4) 蓋沼森林公園

蓋沼は、八木沢集落の西側に位置する丘陵上にあって、沼の表面に巨大な浮島を持ち、浮島上に貴重な植物群が繁茂しています。さらにハッチョウトンボ等が生息していることから、昭和31年(1956)に福島県天然記念物に指定されました。

現在は蓋沼周辺から坊ヶ沢上流一体にかけて、「蓋沼森林公園」として、古瀉沼・三角溜池・大久保溜池付近を周遊する散歩道等も整備されました。



図 蓋沼の植物群落 (出典：『会津高田町史 第五巻』)

蓋沼に浮かぶ浮島は、水上を動く日本最大級の島で、その上には、スギバミズゴケ、オオミズゴケ、ミツガシワ等の水蘚湿原植物やヤマドリゼンマイ、ヨシ等が多量に存在します。

1-5-2 動物

(1) 哺乳類

本町において生息する哺乳類は右表の通りです。

近年、ツキノワグマが人家の軒先まで現れ、平成25・26年(2013・14)と明神ヶ岳山麓において人身被害を出しており、春から晩秋にかけては、熊出没の注意喚起が行われています。

また、国の天然記念物であるカモシカが平成28年(2016)には、本郷地域の市街地に出没しました。この他、これまで本町には生息していなかったイノシシやシカによる、農作物への被害が確認されています。

(2) 鳥類

地域差はあるものの、広範囲に出現する鳥類としては、トビ、キジバト、ヒヨドリ、ウグイス、シジュウカラ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス等が確認されます。

また、コサギ・ゴイサギ・アオサギなどのサギ類も多くみられ、水田で餌をあさる個体を見かけます。これらのサギ類は、集落にある寺社林に営巣し繁殖するため、泣き声による騒音や糞害などが問題となっています。

この他、冬季にはカモやハクチョウが町内の堤や水田に飛来し、落穂をついばむ姿が見られます。

さらに、本町と昭和村の境に位置する博士山にはイヌ

齧歯		ウサギ	翼手		食虫		目
リス		ウサギ		ヒナコウモリ	モグラ	トガリネズミ	科
ムササビ	ニホンリス	ノウサギ	ヒナコウモリ	アブラコウモリ	モグラ	ジネズミ	種
●	○	○	●	●	○	○	●
	駐車場 蓋沼	糞海老山 蓋沼			坑道 蓋沼	死骸 坑道 蓋沼	確認
偶蹄	食肉				齧歯		目
ウシ	ジャコウネコ	イタチ	イヌ	クマ	ネズミ		科
カモシカ	ハクビシン	アナグマ	イタチ	キツネ	タヌキ	ツキノワグマ	種
○	○	●	○	●	○	○	○
天狗岩	死骸 竹原		宮川ダム路上	糞 蓋沼		宮川ダム路上	坑道 松倉沢 蓋沼
							坑道 松倉沢 蓋沼

●印は生息を予想される哺乳類
○印は確認された哺乳類

表 生息している哺乳類 (出典：『会津高田町史 第五巻』)

ワシの飛翔が確認されており、営巣・繁殖の可能性が指摘されています。近年は、白鳳山公園内においても、オオタカの営巣・繁殖が確認されています。

(3) 爬虫類・両生類

爬虫類においては、トカゲ、カナヘビ、アオダイショウ、ヤマカガシ、マムシ等が生息します。かつてはクサガメも河川で見られましたが、護岸工事等の影響で近年見かけることがなくなりました。

両生類については、イモリやヒキガエル、アマガエル等の数種類のカ

エルが生息します。特に、樹上で生活し卵塊を池や沼の上に張り出した小枝に産み付けるモリアオガエルが、八木沢の蓋沼や古潟沼、はちかみさわ関山の八神沢の堤等に生息します。八神沢の堤のモリアオガエルは「関山のモリアオガエル」として、町の天然記念物に指定されています。

(4) 魚類

本町においては、阿賀川を除く河川の上流域ではイワナやヤマメが、扇状地に移って流れが比較的緩やかになるあたりからは、アブラハヤやウグイ、オイカワ等が多く見られるようになります。堰のように流れがゆったりしたところや貯水池では、コイやフナ、ナマズ等が見られます。

かつては、湧水池で青い婚姻色に染まったイトヨが求愛ダンスをし、営巣していた姿は、大規模な基盤整備にともなって姿を消しました。

(5) 昆虫類

本町で確認される昆虫の種類は多く、チョウ、コガネムシ、トンボ、バッタ、カメムシ、セミ、ハサミムシ、トビケラ、アブ、ハチ等を確認することができます。

特に珍しい昆虫類として、日本最小のアカトンボ、ハッチョウトンボが蓋沼に多数生息しています。



水田へのハクチョウ飛来



モリアオガエル

1-6 景観

本町は会津盆地の南端に位置し、平野部とそれを取り囲む山間部から形成されています。そのため、市街地、田園地帯と散居型集落、山間部で景観が異なります。

市街地においては、高田地域・本郷地域において商店街が形成されています。

市街地周辺には田園地帯が広がり、その中に各集落が形成され、高所から望むと、耕地の中に集落が島のように点在している様子が見てとれます。

山間部においては、人家の側まで山が迫り、狭いながらも人家周辺に耕地が存在します。集落は、山の狭間を流れる川の周辺に形成され、狭い地形を活かして細長い形に広がっています。

また、町内には神社仏閣が点在し、市街地や各集落には歴史ある家屋、蔵が散見されるほか、水田や畑、遠景の山並みが町の景観を形づくっています。

さらに本郷地域においては、伝統工芸品である会津本郷焼の窯元が、市街地に点在しており、他の地域に見られない特徴のある景観となっています。



高田地域の市街地と散居型集落（上）
本郷地域の市街地（中）
新鶴地域の田園風景（下）

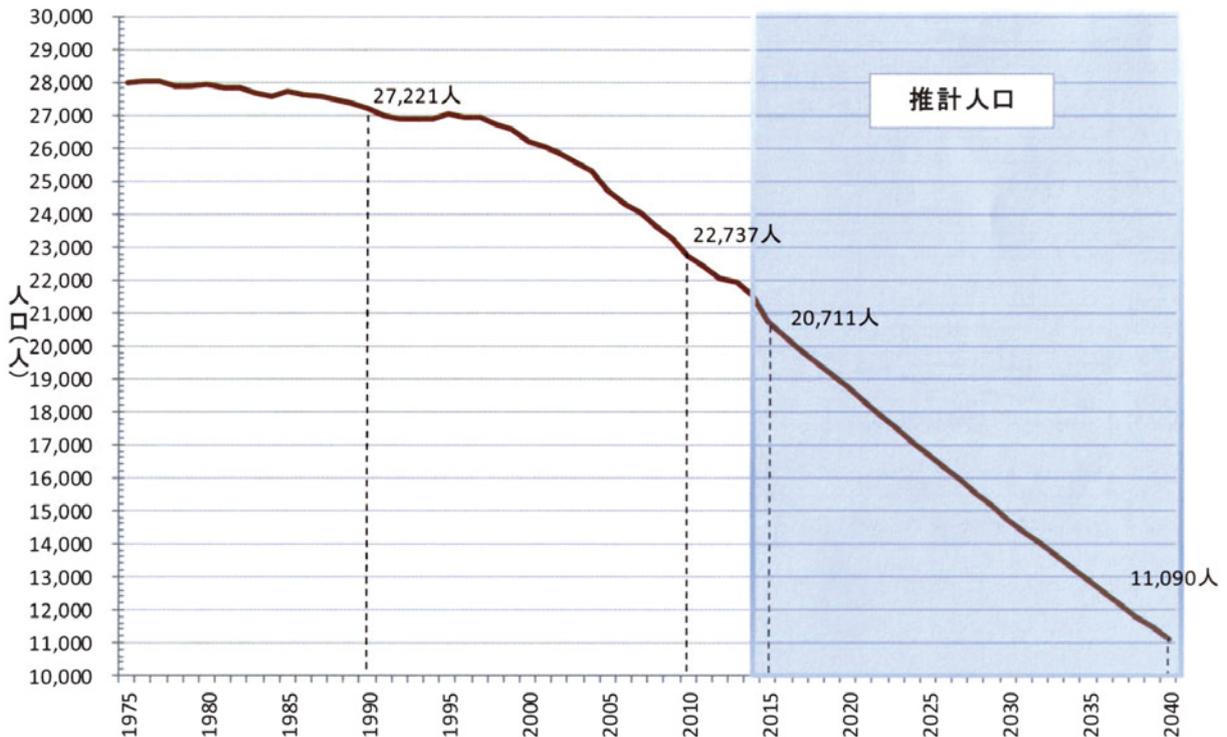
2 社会的状況

2-1 人口動態

2-1-1 人口と世帯数

本町の人口は、昭和25年（1950）の38,779人を最大として、その後減少を続けてきました。平成8年（1996）に27,000人を下回ってからは、急速に減少が進んでおり、この人口減少は今後も進み、平成52年（2040）には、11,090人になるものと推計されています。

総人口の推移



(出典：「会津美里町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略」)

2-1-2 年齢階級別の推移

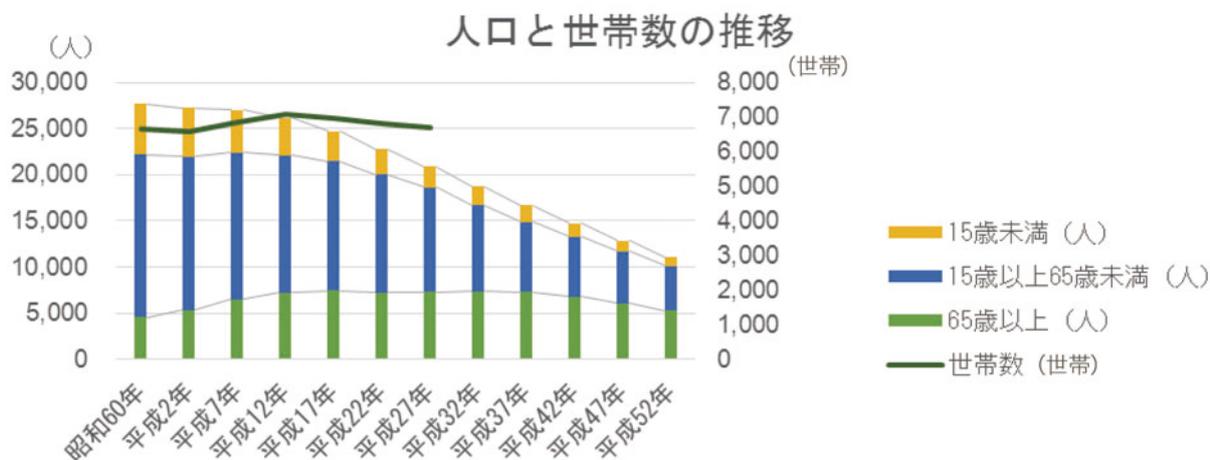
年齢階級別の推移では、生産年齢人口（15～65歳未満）の減少が顕著であり、今後も減少が続く。平成42年（2030）頃には老年人口（65歳以上）を下回ると推計されます。

年少人口（15歳未満）も減少傾向にあり、今後も減少すると想定されています。

老年人口（65歳以上）はいったん増加傾向にありましたが、現在は横ばいの状態となっており、平成42年（2030）からは減少に転じると予測されています。

グラフをみると、65歳以上の人口は、15歳未満及び15歳から64歳までの人口とほぼ同じ割合であることから、本町では、人口減少と合わせて少子高齢化への対応が必要となっています。

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年	平成52年
65歳以上(人)	4,528	5,361	6,494	7,221	7,463	7,262	7,313	7,408	7,282	6,775	6,054	5,270
15歳以上65歳未満(人)	17,690	16,613	15,879	14,919	13,999	12,786	11,347	9,249	7,627	6,504	5,638	4,869
15歳未満(人)	5,487	5,237	4,666	4,032	3,279	2,685	2,253	2,046	1,802	1,477	1,176	951
世帯数	6,653	6,591	6,840	7,092	6,969	6,806	6,710					



2-1-3 出生・死亡・転入・転出数の推移

(1) 自然動態 (出生数と死亡数)

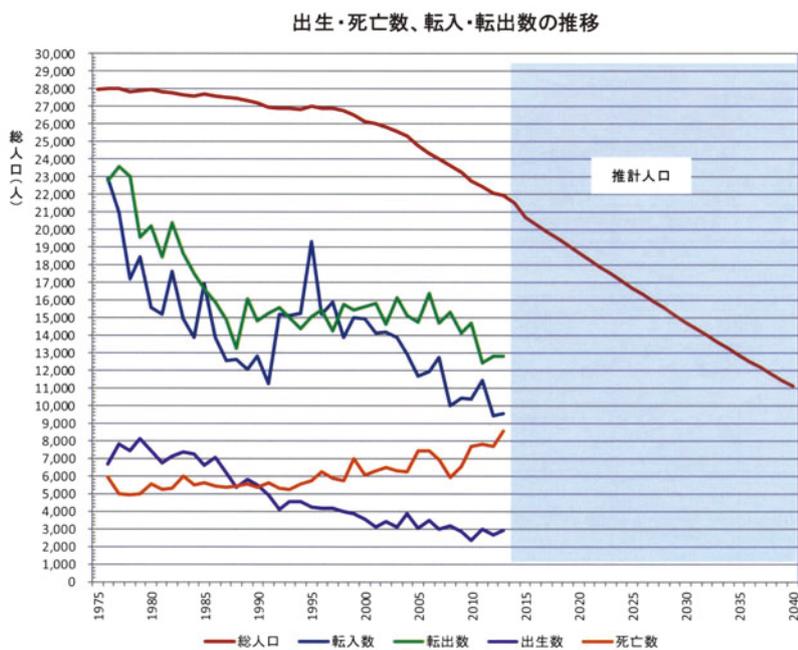
本町における合計特殊出生率 (女性が一生に産む子供の平均数) は、全国及び福島県の平均と比較すると高い数値となっていますが、1.70人 (1998～2002年平均) から1.52人 (2008年～2012年平均) へと低下しています。

平成2年 (1990) 以前は出生数が死亡数を上回っていましたが、平成3年 (1991) 以降は死亡数が出生数を上回る「自然減」の時代に突入しました。その後、死亡数と出生数の差は年々広がってきています。

(2) 社会動態 (転入数と転出数)

昭和50年 (1975) 以降、転出者数が転入者数をほぼ毎年上回っています。平成5年 (1993) ～7年 (1995)、平成9年 (1997) は、一時的に転入超過となりましたが、それ以降は転出超過が続いています。

また、高校卒業後の就職や大学への進学に伴う転出、大学卒業後の就職による転出など、若い世代の転出者が多く、さらに、いったん町外に転出した世代が、本町に戻ってこない傾向にあります。



(出典:「会津美里町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略」)

2-2 産業

2-2-1 産業の動向

本町の基幹産業は、第1次産業である農業です。

しかしながら、昭和35（1960）年に6割以上を占めていた第1次産業は、昭和55年（1980）にはその半分に、平成22年（2010）には3分の1まで減少し、現在も減少傾向にあります。

第2次産業は、昭和50年（1975）から増加傾向にありましたが、平成22年より減少し始めました。第3次産業従事者は一貫して増加傾向にあり、平成17年（2005）度以降、就業人口比率の5割以上を占めるようになりました。

また、農業の従事者は、減少しているとともに、高齢化が進んでいる状況です。また、就業人口も全体的に減少傾向にあるため、農業・林業の担い手不足が懸念され、今後の土地の維持・管理が課題となっています。

表 就業人口及び就業人口比率の推移

区分	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
総数(人)	17,612	16,062	16,123	15,337	15,389	14,949	14,407	13,930	13,345	12,240	10,969	10,592
第1次産業就業人口比率(%)	66.1	59.0	52.3	41.1	33.6	29.6	24.6	21.7	19.8	19.2	18.0	16.8
第2次産業就業人口比率(%)	13.1	16.8	21.0	29.1	32.7	35.1	37.2	36.3	34.2	28.6	26.1	26.2
第3次産業就業人口比率(%)	20.8	24.2	26.7	29.8	33.7	35.3	38.2	42.0	46.0	52.2	55.9	57.0

(出典：昭和35年～平成27年国勢調査)

就業人口比率の推移

